

行政視察等報告書

令和6年3月29日

米子市議会議長様

(会派の場合)

会派名 よなご・未来

代表者氏名 国頭 靖

提出者氏名 土光 均

(議員の場合)

議員名



(印)

下記のとおり報告します。

記

項目	<input checked="" type="checkbox"/> 現地調査	<input checked="" type="checkbox"/> 行政視察	<input type="checkbox"/> 要請・陳情活動
	<input type="checkbox"/> 研修会への参加	<input type="checkbox"/> 会議への参加	
参加者	土光 均		
期日	令和6年3月25日から 令和6年3月27日まで		
[概要] (年月日・場所・内容)	3月25日 三沢市内 原子力発電環境整備機構 (NUMO) 説明・意見交換 3月26日 六ヶ所村内 日本原燃(株)核燃料サイクル施設案内・意見交換 青森県六ヶ所村 原子力関連施設との安全協定について 地域防災計画、広域住民避難計画について		
[所感]	別紙のとおり		
経費	旅費 @99,990円× 1人= 99,990円 その他 @ 8,800円× 1人= 8,800円 合計 108,790円		

(注) 氏名を自署する場合は、押印を省略することができる。

■3月25日：NUMOと意見交換

事前に提出していた質問項目は以下であった。

- ① 現在、ガラス固化体 2500 本、使用済み核燃料 19,000t（再処理後想定されるガラス固化体 26,000 本）であるのに、なぜ4万本規模の処分場を作ろうとしているのか
- ② ドイツ、フランスはなぜ処分対象（方法）が直接処分とガラス固化体の両方なのか。
どう理由で使い分けているのか。
- ③ いま、NUMO が進めている高レベル放射性廃棄物の地層処分は再処理後のガラス固化体が前提としているが、もし、再処理をしない直接処分となった場合でも安全な地層処分は可能と考えるか（技術的、経済的な視点から）
- ④ 以下の地学の専門家ら 300 名余による地層処分に関する声明文をどう評価するか
<http://www.chichibu.ne.jp/~sekine-kz56/zenkokuseimei/top/seimeihonbun.pdf>
- ⑤ NUMO としては、「高レベル放射性廃棄物、科学特性マップ」での「好ましくない特性があると推定される地域」をどう評価しているのか。たとえば、その地域の自治体から調査の応募があったとしたら、応じるのか。
また能登半島地震で大規模な海岸線での隆起が見られたが、科学特性マップでは、「好ましい地域（緑色）」と評価されていた。このことをどう思うか。
- ⑥ TRU も地層処分するとのことだが液体状態のものもあるようで、これらをどう処理して数万年地下水に溶け出さないようにできるのか。

<所感>

①の回答で、これまでの NUMO の公式回答はコストパフォーマンス（1本当たりの費用安くなる）がいいからということであったが、今年の政府方針で、原発の活用（リプレイス、新規立地）が掲げられているので、これからも原発の運転により使用済み核燃料は増えることになりそれに対応するためという理由もあるとのこと。

これに関しては、「これまで生み出してしまった核のごみを次の世代に残すのではなく我々の世代で目途をつける」ということを地層処分の大義名分にしているが、本当にそう思うなら、「これ以上処分の見通しが立っていない核のごみを増やさない」とするのがまっとうな考え方ははず。

また、③のやりとりで、NUMO はガラス固化体（再処理をすることが前提になる）の地層処分が法律等で定められた任務ということになっているが、欧米（フィンランド、スウェーデン等）のように、再処理をせず、使用済み核燃料を直接地層処分することは、技術的、経済的に可能に関して見解を求めると、個人的な見解だと断った上、不可能ではないとのことだった。

再処理することは、技術的にもコスト的にも、大きな壁にぶつかっている今、直接処分に政策転換すべきであると私は考えているが、技術的には可能であることがうかがえた。

■3月26日午前：日本原燃の核燃料サイクル施設見学、意見交換

施設見学は、まずPR館で一通りの説明を受け、その後、実際の施設を、主にバスで回り説明を受ける。

具体的な施設は、再処理工場、低レベル放射性廃棄物埋設センター、高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター、ウラン濃縮工場、MOX燃料加工工場

事前の質問事項は以下

(再処理工場に関して)

- ① 現時点で、いつ稼働する予定か
- ② 度重なる延期の根本原因は何か
- ③ 稼働見込み(予定)に関して、各電力会社にどのように説明しているのか
- ④ プルサーマル発電の使用済み燃料は、現在稼働を目指している再処理工場で再処理できるのか
- ⑤ 稼働後の処理量はいくらを想定してるか(処理能力は年間800tと聞いているが、国際的な約束で、プルトニウムの消費以上は処理できないという制約があるのではないか)
- ⑥ トリチウムの排出量はいくらか、安全上問題ないのか。
- ⑦ 再処理事業の総額はいくらか。財源はどのように調達するのか
- ⑧ 使用済み核燃料、ガラス固化体の所有者は誰なのか

<所感>

なんと言っても再処理工場、当初は1993年稼働予定であったのが、26回の稼働予定延期、そして、その26回目の稼働予定(2024年度上半期)も「きびしい」とのこと。

この理由を率直に聞いてみると、技術的問題(ガラス固化体の製造)、新規制基準に適合するための作業ということであった。ただ、技術的問題は、現在クリアされている、とのこと。

本当に技術的な問題は解決されているか判断できないが、今後の推移を注視するしかない。また、再処理を実施する最大の理由は、ウラン燃料のリサイクル(プルトニウムの利用)であるとされている。現在プルトニウムの利用は具体的には、プルサーマル発電を実施することだが、その結果生ずる使用済み核燃料(MOX燃料の使用済み燃料)は、現在稼働しようとしている再処理工場がたとえ稼働したとしても、そこでは処理できない(それを前提での原子力規制委員会の審査を受けていない)ということを確認することが出来た。

■3月26日午後：六カ所村視察

事前の質問事項は以下

<原子力関連施設との安全協定について>

- ① 安全協定を結ぶに至った経緯
- ② 現在の安全協定の内容・運用に関して、何か課題はあるか
- ③ 六ヶ所村以外の周辺自治体は安全協定を結んでいるのか
<地域防災計画、広域住民避難計画について>
- ① 5 km圏内、30 km圏内の住民の数はいくらか
- ② 5 km圏内、30 km圏内の避難行動要支援者の数はいくらか
- ③ 地震、津波想定は何に基づいて、どのようなものか
- ④ 計画内容の住民に対する周知はどのように行っているか、課題は何か
- ⑤ 防災避難訓練の実施状況、現時点での課題は何か
- ⑥ PAZ 以外での安定ヨウ素剤の事前配布の必要性はないのか、住民の要望はないのか
- ⑦ 安定ヨウ素剤の緊急配布で、住民は車で配布場所に行くことになっているが、駐車場の不足、道路の渋滞の懸念はないか
- ⑧ 「屋内退避」に関しての課題は何か
- ⑨ 避難行動要配慮者等の個別避難計画は出来ているのか
<その他>
- ① 再処理工場の稼働の度重なる延期に関して、村としてはどのように思っているか
- ② 現在、村の主要な課題と考えている事柄は何か

<所感>

六ヶ所村は、5 km圏内に核燃料サイクル施設が存在し、30 km圏内に東通村原発がある。そのため、それぞれ避難計画を立てている。

その避難計画の課題は、米子市が抱えている避難計画の課題と共通するものが多かった。特に避難時の道路の問題、積雪時、車の駐車場確保の問題、安定ヨウ素剤の配布服用の問題など。米子市での事例なども紹介し、課題をどのように解消したらいいかなど意見交換が出来た。

また、核燃料サイクル施設に関しては PAZ という概念がなく、UPZ だけ、そしてその距離は半径5キロ圏ということだとわかり、少々驚いた。どのような想定でこのように考えているかまでは、分からなかった。

六ヶ所村は、国策である核関連施設が数多く存在し、そこで働いている労働者の数も多く、財政的にも豊かであるが、人口減少には歯止めがかかっておらず、このことは現在の村の主要な課題であるとのことだった。少々意外だった。

■3月27日

天候にも恵まれ、雪もなかったので、東通原発、東通役場、むつ市の中間貯蔵施設、原子力船むつ記念館、六ヶ所村立郷土館を見て回ることが出来た。

帰りは、三沢空港発の飛行機であったが、この三沢空港は米軍基地であること再認識。

行政視察行程（会派：よなご・未来 土光議員）

月 日	行 程	宿 泊 先
3 / 2 5 (月)	<p>7:25 8:55 10:35 11:55 12:38 12:53 13:20 13:22 13:27 米子空港 == 羽田空港 == 三沢空港 ** 三沢空港温泉前/十鉄バス == 三沢駅東口 * 三沢駅 ANA382便 JAL155便 徒歩 十鉄バス・ビードル東線左回り 徒歩</p> <p>○原子力発電環境整備機構（NUMO）説明・意見交換 午後2時00分から午後4時00分まで 場所：三沢シティホテル会議室</p>	<p>三沢シティホテル ☎：0176-52-7777</p>
3 / 2 6 (火)	<p>8:00 9:00 ホテル == 六ヶ所原燃PRセンター タクシー</p> <p>○日本原燃核燃料サイクル施設案内・意見交換 午前9時30分から午後0時30分まで 【PRセンター】☎：0175-72-3101 場所：六ヶ所原燃PRセンター他</p> <p>六ヶ所原燃PRセンター == 六ヶ所村役場 タクシー</p>	<p>三沢シティホテル ☎：0176-52-7777</p>
3 / 2 7 (水)	<p>○六ヶ所村行政視察 午後2時00分から午後4時00分まで 【議会事務局】☎：0175-72-8121 【調査項目】原子力関連施設との安全協定について、地域防災計画・広域住民避難計画について</p> <p>三沢駅 * 三沢駅東口/十鉄バス == 三沢空港温泉前 * 三沢空港 == 羽田空港 == 米子空港 徒歩 十鉄バス・ビードル東線左回り 徒歩 JAL156便 ANA389便</p>	

旅費計算表

令和6年3月25日 ~ 令和6年3月27日

土光議員

「原子力発電環境整備機構・日本原燃(株)説明及び意見交換、青森県六ヶ所村」

月日	区間	鉄道路線名	区キ	間キ	目的地までの区キ	運賃	グリーン	急行料金		宿泊		料
								別	幹線	日	当	
3/25 (月)	米子空港 ~ 羽田空港 ~ 三沢空港	ANA JAL				17,090 14,780			議員1,500円 随行1,100円	甲 14,800円 乙 13,300円	9,800円 8,250	
3/26 (火)												8,250
3/27 (金)	三沢空港 ~ 羽田空港 ~ 米子空港	JAL ANA				14,780 17,090						
計	議員 随出	議員 随出			80,240 0	63,740	0	0	0	0	0	16,500

出席議員 土光議員

議員旅費 80,240 × 1名 = 80,240 円
 3/25会議室料 8,800 円
 3/26貸切タクシー代 17,000 円
 JAL 発券手数料 2,200 円
 取扱料金 550 円
 (三沢市⇒六ヶ所村)

合計 108,790 円